<u>自動膨張式身体浮揚具(PFD)を使用する権限</u>
変更#0010

次の２つのセクションを２００３年１１月版 EM385-1-1 の中で交換しなさい。

セクション 05.H の全てを下記に取り替えなさい:

05.H. 身体浮揚具

05.H.01 本質的に浮力のあるタイプ III、タイプ V 作業ベスト、あるいは米国沿岸警備隊(USCG)が承認したよりよい身体浮揚装置(PFD)を以下の状況において、すべての人に支給して、適切に着用させなければならない(ジッパーで閉じる、紐で結ぶ、ラッチを掛けるなどの方法で密閉して着用する)。＞図 5-1 を参照

a. 浮遊パイプライン、ポンツーン、いかだ、または桟橋の上。

b. 水上に張り出しているか、水面に隣接している構造物や設備の上（構造物に固定されない大重量の作業設備を含む）。但し、これらに従業員用のガードレール、墜落防止用保護設備、あるいは安全ネットが設けられている場合は除く。

c. 夜間の単独作業で、他の保護手段が備えられているにも拘わらず、溺れる危険がある場合。

d. 短艇、小型ボート、ランチの上。但し、密閉キャビンがコックピット内にいる場合は除く。

e. その他、溺れる危険がある場合。

05.H.02 タイプ V、あるいはそれ以上の、商業用途のために USCG で承認された自動膨張式の PFD を、以下の基準に合うならば、本質的に浮力のあるＰＦＤ(上記の条件 05.H.01.a-e を参照)の代わりに USACE の現場で作業員が着用してよい。

a. PFD は、16 歳以上の労働者で体重 90 ポンドかそれ以上の人だけが着用する。

b. AHA はこの活動のために行なわれなければならない。

c. PFD は、メーカーの指示に従ってのみ検査され、維持され、保管され、使用されなければならない(大規模建設工事または補修工事、あるいは高温作業(溶接、ろう付け、切断、はんだ付けなど))が行われている場所では、今のところ使用されるように意図されていない)。

d. PFD は 30 ポンドの最小の浮力ポスト配備を備える。

e. USACE 従業員は、USACE の自動膨張式身体浮揚装置、2007 年 7 月 1 日付使用手続き基準に従う。

05.H.03 着用可能な PFD はすべて、目立ったオレンジ/赤みがかっている色(46CFR160 と USCG 必要条件(46CFR パート 25.25-15)に合う再帰反射物質を装備)でなければならない。PFD はそれぞれ、USCG に許可された自動的に作動するライト(ライトは日中に行なわれる工事の PFD には必要でない)を装備しなければならない。各使用の前後に、PFD はその強度や浮力を変更するような欠陥の有無を検査しなければならない。

05.H.04 投げ渡し型救命具(タイプ IV PFD)

a. USCG が認定した船舶においては、46CFR の要件に従って、救命浮器に自動浮遊水中灯を備えることが要求される。

b. 他の全ての浮遊設備類および沿岸施設においては、適切な屋外照明（投光照明、照明柱など）が備えられない場所においてのみ救命浮環に照明を備えることが要求される。これらの工場および施設においては、すくなくとも１個の救命浮環、および、それ以後３個目毎に自動浮遊水中灯を備えなければならない。

c. 全ての PFD には USCG の要件に従って再帰反射テープを備えなければならない。

d. 救命浮環(ロープ取付け不要)および救命浮器(ロープ取付け要)は、46CFR 160(米国沿岸警備隊承認)の要件に適合しなければならず、強固な 3/8 インチ(0.9 センチ)の組紐ポリプロピレンまたは相等品のロープを最低 70 フィート(21.3 メートル)取り付ける。救命浮環、救命浮器に加えて、投げ渡しバッグを使用することが出来る。救命浮環、救命浮器は容易に利用できるようにしておき、下記の場所に備える。

(1) 救命短艇１台につき最低１個。

(2) 長さ 40 フィート(12.1 メートル)未満のモーターボート１台につき最低１個、長さ 40 フィート(12.1 メートル)以上のモーターボート１台につき最低２個。

(3) 長さ 100 フィート(30.4 メートル)未満の他の浮遊設備類については最低２個とし、長さが 100 フィート(30.4 メートル)増すごとに、またはその端数に対して１個を追加する。

(4) パイプライン、歩行者用通路、波止場、桟橋、防護壁、閘門壁、足場、架台、その他同類の構造物で水上に張り出しているか、水面に隣接してるものには 200 フィート(60.9 メートル)を超えない間隔ごとに最低１個。ただし、水面までの落下距離が 45 フィート(13.7 メートル)以上の場合には救命浮環を使用しなければならない。(これらの場所において救命浮環に取り付けるロープの長さは場所毎に評価するものとするが、長さは 70 フィート(21.3 メートル)以下であってはならない。)

05.H.05 船舶航行用運河では浮遊安全ブロック(水面に落下した者が船に押し潰されないように、水中に素早く押し出すことが出来るブロック)の使用について効果対危険の分析を行わなければならない。

a. この分析は作業危険分析（AHA）として文書化しなければならない。

b. ブロックの使用が適切であると判断した場合、そのブロックの大きさと置き場、保管方法、表示方法などについても検討する。もしブロックの使用が不適切と判断した場合、代替的な安全対策を策定しなければならない。

自動膨張式身体浮揚具(PFD)を使用する権限

19A.03.d を次のものに取り替えなさい:

19.A.03.d 悪天候にさらされるデッキ上の全ての要員は、他の安全装置が整備されていようとも、USCG が認定した個人用浮揚具(タイプ I、II、III あるいは V)を着用する。商業用途のために USCG で承認された、タイプ V 自動膨張式の PFD は 05.H.02 により USACE の現場にいる作業員が着用してもよい。